

筑西市国際友好協会

昔も今も、これからも

誰もが住みやすいまち、筑西へ

新組織で活動開始

平成27年5月17日、筑西市国際友好協会は、下館国際交流友の会（下館地区）、筑西市国際交流協会（明野地区）、協和国際交流協会（協和地区）が一元的に活動を展開していくために合併し、新組織として設立されました。会長の神原重子さんを中心とし、70人の会員が国際親善を目的に活動しています。

国際交流が求められる今

市には、11か国以上、約2800人の外国人が在住し、ここ3年で約500人増加しています。少子高齢化と人手不足が問題視されるなか、国際化が進展すると、文化風習の違



イベントを通して親睦を深める筑西市国際友好協会のみなさん

いで摩擦が起こると共に、外国人の生活の相談事も増えていくことが考えられます。そこで、誰もが住みやすいまちを目指し、外国人のための「日本語教室」や「漢字教室」で日本文化の理解を深めてもらっています。バーベキュー交流会やりんご狩りなど、異文化の交流の促進を図っています。

最近の活動内容について

市のごみ出しのルール案内は、日本語と英語の表記しかありませんでした。市内在住の外国人のみなさんには、理解することが難しい人もいて、家庭ごみの適切な処理ができず、集積所にごみが散乱するケースも報



多言語版ごみ出しルールリーフレット

多言語版ごみ出しルールリーフレットはホームページからご覧ください。



筑西市国際友好協会のみなさんが、春季善行表彰を受けました

告されていました。そこで、ごみの出し方についての理解を深め、生活の利便性を図るため「多言語版ごみ出しルールリーフレット」を作成しました。このリーフレットは、10年以上日本語教室で日本語を学び、市内に住んでいる外国人のみなさんに翻訳をお願いしました。

作成言語は、英語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、中国語、ポルトガル語、韓国語の7言語です。

国際貢献が認められ表彰

長年にわたる、外国人への在住支援や国際文化交流活動などが国際貢献の分野で認められ、筑西市国際友

つなぐのを絶つのは簡単
築くのは数倍難しい

設立当時は、手探り状態で、講習会や交流会を開催しました。日本文化に初めて触れた外国人と同じように、私たちも文化の違いに戸惑うこともありました。教室に参加してくれた外国人が日本で結婚、出産、そして、子どもと一緒に参加してくれると、信頼関係が築けたと実感し、嬉しくなります。

先輩たちが築き上げたこの会を受け継ぎ、これからもお互いが住みやすいまちを作れるよう、活動していきます。



筑西市国際友好協会
かみほらしげこ 神原 重子 会長

好協会が「令和3年度春季善行表彰」を受けました。

同協会の活動は、市民と外国人との交流を促進し国際文化交流の活性化を図るとともに、外国人が住みやすい環境づくりに大きく貢献しています。

市民記者のページ



やまぐち しんや 山口 信也さん (末広町)

大河ドラマで話題の渋沢栄一が商工会議所設立に携わっていたと言われています。

みなさんは、「下館YEG」をご存知でしょうか。「下館YEG」とは、下館商工会議所青年部（若き起業家集団）を英語で訳した「Young Entrepreneurs Group」の頭文字をとったものだそうです。その若者たちが日々どんな活動をしているのか、また市にとってどのような影響を与えているのか疑問に思い、下館YEG会長の正根寺和子さんに、お話を伺いました。

下館YEGとは

下館YEGは、昭和59年に設立され、今年で37年目を迎える経済団体です。45歳以下の下館商工会議所会員56人で組織・運営され、全国商工会議所青年部連合会にも所属してい

市内で活躍する若手経済団体

コロナ禍でも経済を止めない、若者たちの挑戦

ます。「設立から今日まで、YEGは自社の企業発展を基本としています。自社の企業が発展し、他の業者も発展する。さらには市全体に広がり、地域社会の貢献へとつながると考え、情熱を持って日々活動しています」と正根寺さん。

下館YEGの活動内容

昨年は、地域活性化事業として、勤



①正根寺会長（中央）と下館YEG会員のみなさん



②③「かいぼり大作戦濁り淀んだ池にビオトープを創ろう」が行われた様子

コロナ禍での取組み

コロナ禍は、例会や会議の開催が難しくなるなど、下館YEGの活動にも大きな影響を与えています。そこで、昨年からはオンラインで会議や講演会を開くなど、時代に合わせた取組みを始めました。活動する際には、マスク着用や密にならないようソーシャルディスタンスを守り、感染予防対策を徹底しています。

行緑地で「かいぼり大作戦濁り淀んだ池にビオトープを創ろう」を実施しました。また過去には、市内の商業が進展してほしいとの思いで、「しもだて商まつり」を主管・運営してきました。市内の企業の展示ブースや飲食店が軒を連ねる商まつりには、毎年、約3万人の来場者が訪れ、大変にぎわいをみせます。「この2年間は台風やコロナ禍の影響により開催できませんでしたが、経済団体として経済を止めないためにも、今年は感染拡大を予防するため安全対策を万全に整え、開催できるように準備を進めています。コロナ禍でダメージを受けている事業所には、ビジネス的なサポートなどをして、お互いの手を取り合って、この難局を乗り越えていきたい」と正根寺さんから、仲間を思う絆を感じました。



過去に行われた「商まつり」の様子

今年の活動方針

スローガンと「SHIMODATE PRIDE」動く 動ける 動かせる」を掲げているそうです。このスローガンは、①経済人として動くスキル②臨機応変に動けるスキル③経済者として人を動かせるスキル、この3つを磨き、これまで以上に「コロナ禍と向き合い、戦っていく」という想いが込められています。

コロナ禍で疲弊した市内経済に元気を取り戻すためにも、更なる挑戦に期待しています。